



「ふるさと」神戸の話を聞く会（6年2組 総合的な学習の時間）

6年2組の子供たちが、総合的な学習の時間「スクールスコープ～神戸小 PR 突撃隊～」で、「昔の神戸小のことを知りたい。」という願いを持ちました。そこで、8名の方をお招きし、それぞれの神戸小学校在学時代のお話などをさせていただきました。

- 神戸小の始まりは、明治8年、常願寺の寺子屋「七邑舎」であった。（七つの邑は一色、神戸、今宮、石井、桑崎、間門、鶴無ヶ淵）明治時代は学区が何度か変わり、今宮分校や鶴無ヶ淵小学校に通った時代もあった。
- 昭和22年まで「今泉小神戸分教所」として旧駐在所の西側に木造校舎があり、1～4年生までの子供が通い、5・6年生は今泉小まで通った。木造校舎には、1学級50～60名、それ以上の児童数が生活していたこともあった。
- 水道がなく、土管にある山からの水を沸かして飲み水に使用していた。水を運ぶのが子供の仕事だった。当時は膝まで雪が積もったこともあり、くっ下もなく、木の床が冷たかった。
- プールがない頃は、「臨海学校」があった。
- 昭和28年に給食が始まって、当時は脱脂粉乳だった。
- 昭和51年までは、富士見台地区の子供も神戸小に通った。……

興味深く聞き入っている子供たち。それぞれ関心を持ったところに想いを馳せたと思います。今は物が豊富で快適な生活をしていますが、楽しそうにお話をする方々から、本当の豊かさとは何かを考えさせられました。

来年度から小中一貫教育が始まります。施設分離型として9年間で吉原北中校区の子供たちの育ちを支えるため、今、教育ビジョンを4校の職員で共有しながら準備を進めています。何度か学区が改正され、校舎も移り変わっていますが、元をたどれば、古くから共に交わっている友達です。その中でも、ふるさと「神戸」を自分の言葉で語れる子供であってほしいと願います。



6-2 作成
神戸小のジオラマ

「夢が広がる 大谷翔平選手のグローブ」

大谷翔平選手から全国の小学生へプレゼントされたグローブが、神戸小学校にも届きました。

1月23日、体育委員会の子供が箱を開封し、25日には野球経験のある子供による「グローブのはめ方や使用方法、キャッチボールの仕方」の動画撮影をしました。これらの様子はロイロノートで見ることができます。全員の子供がグローブをはめてタブレットで記念写真を撮ったら、いよいよ「野球しようぜ」という大谷選手の思いを受け止めて実際に使わせていただきます。ルールは、体育委員会を中心に子供たちに考えてもらおうと思います。大谷選手の「夢を叶えるために大切にしていること」例えば「ごみを拾うことは、運を拾うこと」「いろんな本を読んだほうが自分で決めるのもうまくなる」「生活で一番大切にしていることは、睡眠」などの話は夏休みに紹介しています。大谷選手の生き方や人柄も感じてもらえたらと思います。

